

エ 期 日

小学校 昭和60年9月5日～7日

中学校 昭和60年6月18日～20日

オ 参 加 者

小学校 4名

中学校 3名

⑤ 昭和60年度道德教育校長等指導者養成実践講座（都道府県講座）

ア 趣 旨

道德教育の基本問題及び指導上の諸問題について研修を行い、教員の実践的指導力の向上を図り、もって小学校及び中学校における道德教育の一層の充実に資する。

イ 主 催

文部省 福島県教育委員会

ウ 会 場

各管内ごとに設定（8会場……県中は2会場）

エ 期 日

各管内ごとに3日を設定

（始期6月27日、終期11月13日）

オ 参 加 者

小学校641名、中学校361名 計1,002名

⑥ 小学校教育研究会道德部会

ア 研究主題

「児童自らが生活の高まりを求める道德の授業は、どのようにすればよいか。」

イ 主 催

福島県教育委員会、福島県小学校教育研究会、関係市町村教育委員会

ウ 会場・期日

○地区 各地区ごとに設定（16会場）7～8月

○県 相馬市立中村第一小学校 10月8日、9日

⑦ 中学校教育研究会道德部会

ア 研究主題

「道德的価値を主体的に自覚する道德の授業は、どうあればよいか。」

イ 主 催

福島県教育委員会、福島県中学校教育研究会、関係市町村教育委員会

ウ 会場・期日

○地区 各地区ごとに設定（16会場）7月～8月

○県 二本松市立二本松第一中学校 10月2日

## 5 特別活動

### (1) 昭程60年度指導の重点

特別活動は、児童生徒の「望ましい集団活動を通して」「自主的、実践的な態度」の育成を目指すものであり、自己教育力を高める上からも、重要な意味をもつ教育活動である。各学校においては、特別活動の教育的意義や価値を正しく認識し、児童生徒の実態を的確に把握するとともに、「めざす児童生徒像」を明確にして、創意に富んだ教育活動が展開されるよう工夫する必要がある。このため、次の点に努力してきた。

① 集団活動をより充実させるため、実態に即した創意あ

る指導計画に改善する。

② 児童生徒による自主的、実践的な活動が充実するよう指導法の改善に努める。

③ 各内容ごとに指導の重点をあげ、その充実を図る。

### (2) 主な研修及び行事

① 県小学校教育研究会特別活動部会

ア 主 催

県教育委員会、県小学校教育研究会、開催市町村教育委員会

イ 研究主題

所属する集団の一員としての役割を自覚し、自発的自治的な実践活動をする児童を育てる指導助言はどうすればよいか。

ウ 県研究協議会

○期日 昭和60年10月8日～9日

○会場 二本松市立塩沢小学校

② 県中学校教育研究会特別活動部会

ア 主 催

県教育委員会、県中学校教育研究会、開催市町村教育委員会

イ 研究主題

自治的能力を育てる指導

ウ 県研究協議会

○期日 昭和60年10月1日～2日

○会場 福島市立岳陽中学校

## 6 生徒指導・進路指導

### (1) 生徒指導

生徒指導は、学校の教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、「すべての児童生徒を対象とし、一人一人を理解し、人格を尊重し、それぞれの児童生徒の能力・適性・社会的資質の伸長を図るための総合的教育活動である」との認識に立って、積極的に進められるべきである。

そのため、次の点に努力してきた。

○教師の共通理解を深め、指導体制を確立する。

○実態に即した指導計画に改善する。

○生徒理解と教育相談を一層充実させ、生徒指導に当たる。

○学業指導の強化充実を努める。

○児童生徒の事故防止に努める。

① 文部省・県指定生徒指導研究推進校の研究と実践

ア 会津若松市立第四中学校（校長 浅沼 恒昭）

○指 定 文部省 昭和59年度～60年度

○研究主題 意欲的に取り組む生徒の育成をめざして

イ 石川郡平田村立蓬田中学校（校長 吾妻 幹廣）

○指 定 県教育委員会 昭和59年度～60年度

○研究主題 主体的に行動できる生徒の育成

② 生徒指導総合推進校

ア 西白河郡矢吹町立矢吹中学校（校長 斎藤 賢一）

○指 定 文部省 昭和60年度～61年度

○研究主題 一人ひとりの自主性を育てる生徒指導

③ 県指定生徒指導研究推進地区の研究と実践

ア 矢祭地区（小学校5校、中学校1校）

○指 定 県教育委員会 昭和59年度～60年度